

就職活動時期繰り下げによる部活動への影響調査

2014年5月

株式会社アスリートプランニング

2016年3月卒業予定者より、企業の採用広報および選考活動時期が繰り下げとなることを受け、弊社は部活動に所属する体育会学生の就職活動に不利益が出ないように、支援体制を整える必要があると考えております。

本調査を通して、改めて部活動のスケジュール等を明確にすることにより想定される影響を明らかにした上で、体育会学生が部活動に専念できる環境を創出するため、企業・大学等の関係者へ提言を行ってまいります。

<調査概要>

調査対象：関東大学サッカー連盟所属 関東大学サッカーリーグ戦参加 24 大学
学生幹事（運営スタッフ）

有効回答数：20 大学

調査方法：アンケート用紙回収

調査期間：2014年3月11日～31日

<調査項目>

- ・主な活動日
- ・年間スケジュール
- ・現時点での希望進路
- ・就職に関する情報収集を始めた時期
- ・インターンシップ参加経験
- ・参加したインターンシップの期間
- ・インターンシップへの参加意欲
- ・興味のあるインターンシップ
- ・インターンシップに参加しない理由
- ・アルバイト経験
- ・アルバイトの頻度
- ・長期オフの過ごし方

<本資料について>

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。資料のご利用やご質問等に関しては、下記までご連絡ください。

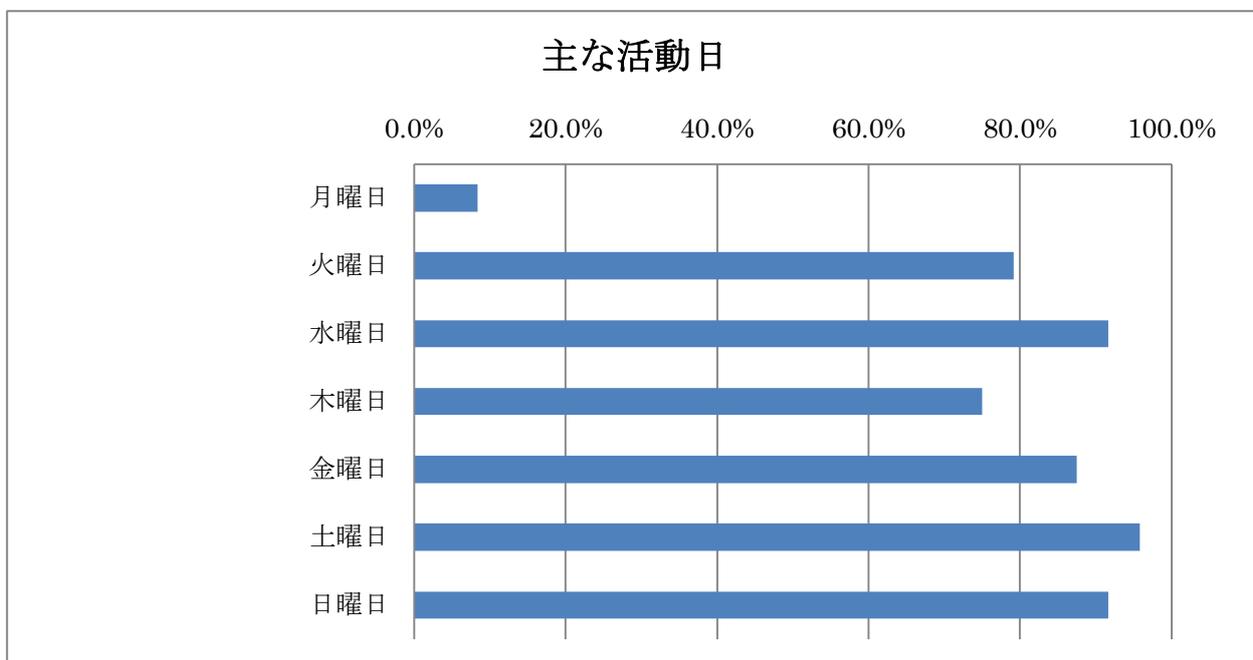
<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社アスリートプランニング HR 事業部 人材開発課 太田 浩之

Tel: 03-5937-8460 Mail: ohta@athlete-p.co.jp

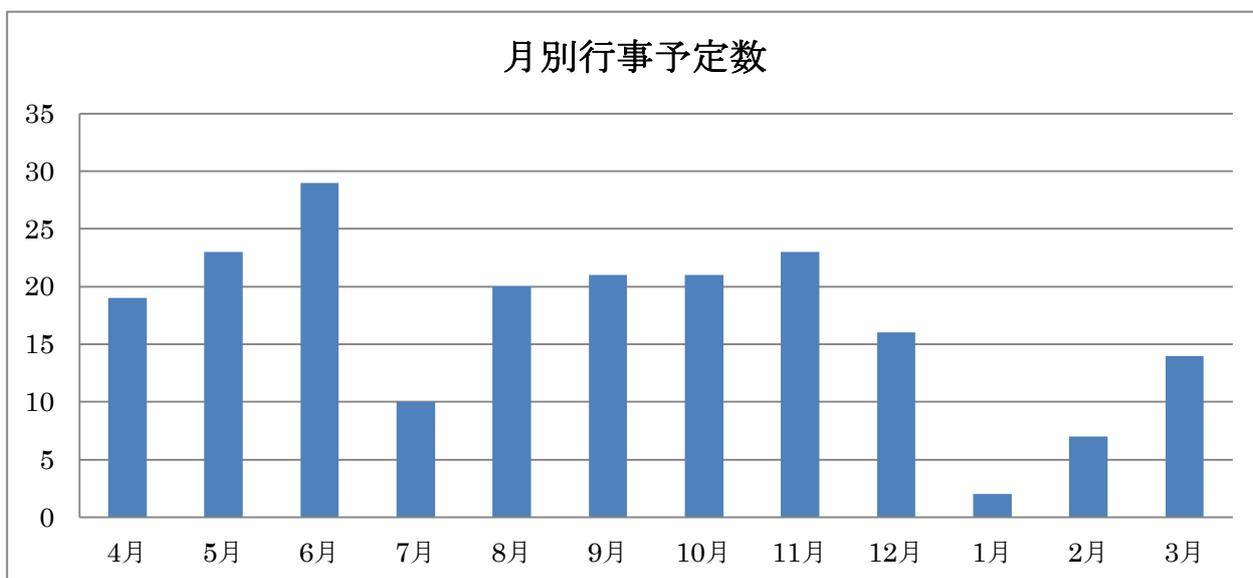
1. 主な活動日は、月曜日を除く週6日

月曜日がオフの部活がほとんどで、それ以外の曜日は練習が入っているという回答が8割前後という結果になりました。これに学業、アルバイト等が加わるため部活動に所属する学生は、就職活動に使える時間が限られることが考えられます。



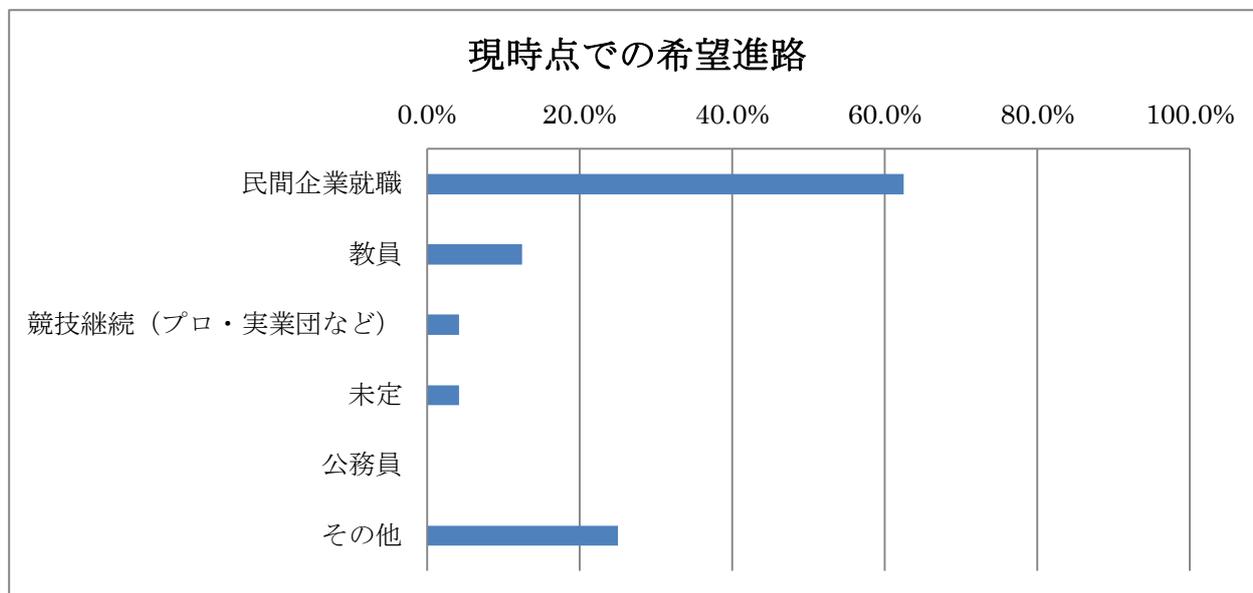
2. 年間を通じてリーグ戦などの行事があり、1～2月がオフの部活が多い

各大学のスケジュール件数を集計したところ、1～2月が最も少なくオフ期間であることが分かりました。しかし、同期間は大学における試験期間とも重なるため、学生が自由に行動できるとは限りません。また2016卒学生の就職活動は採用広報開始が3月、選考開始が8月を予定しているため、リーグ戦と時期が重なるなどの影響を受けることが想定されます。



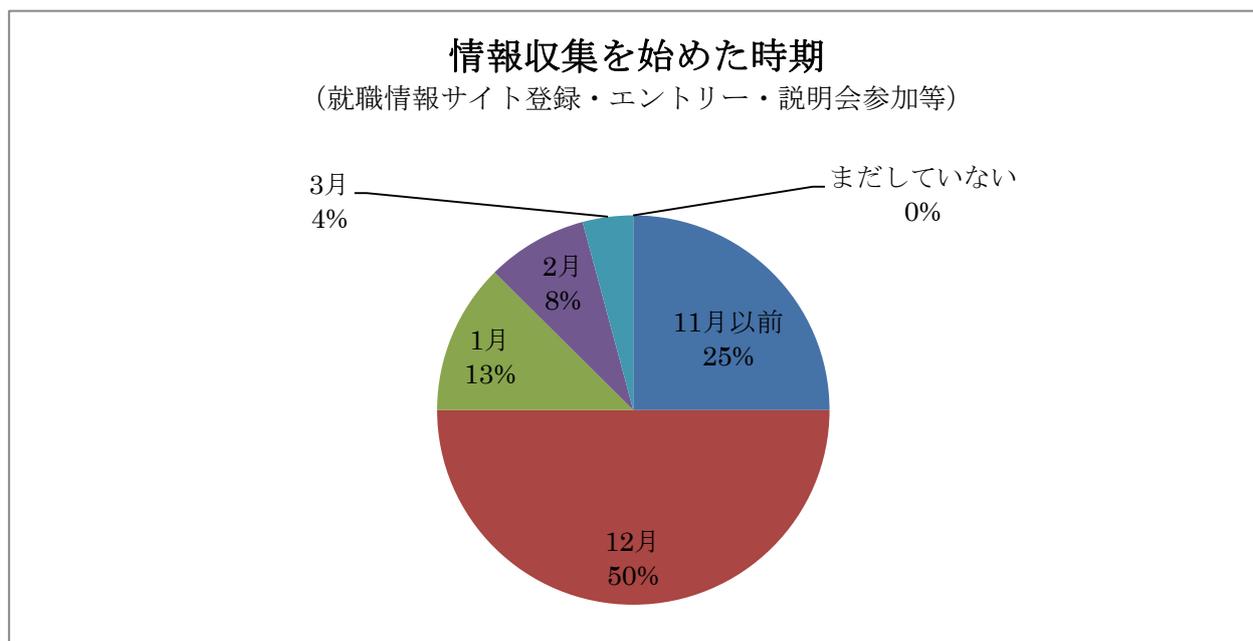
3.現時点での希望進路は「企業就職」が圧倒的多数、その他は少数

企業への就職を希望する学生が6割を超え、教員・公務員・プロ・実業団などの進路を希望する学生は2割弱という結果になりました。多くの学生が、卒業後の進路として企業への就職を考えているようです。



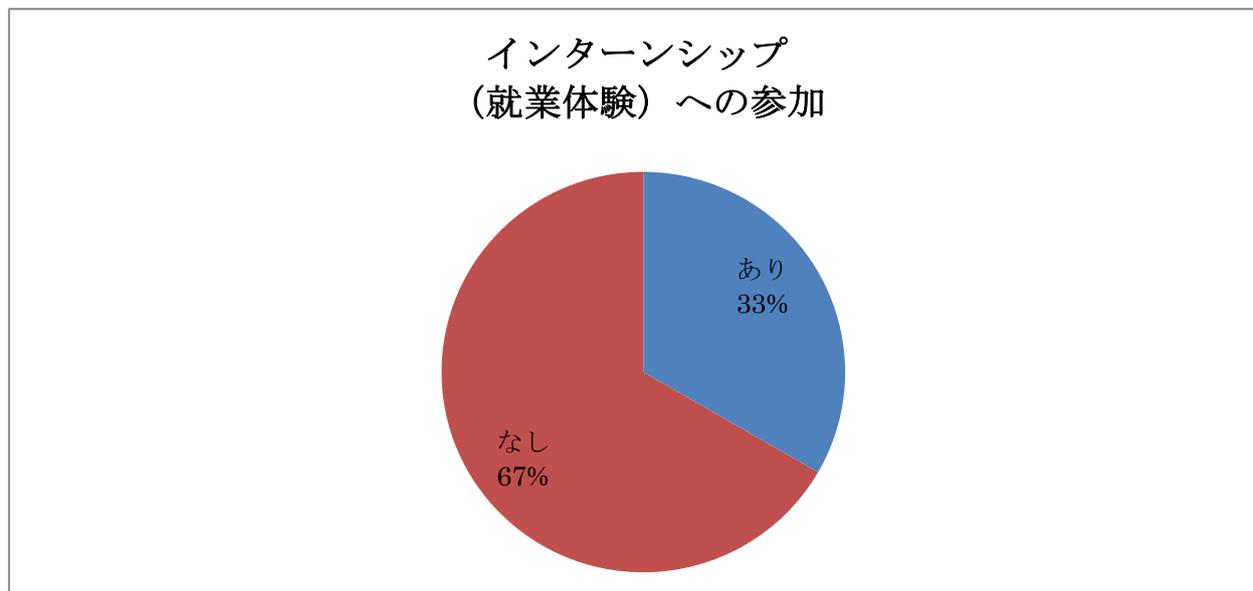
4.就職に関する情報収集を始めた時期は「3年生の12月」が半数

就職情報サイト登録やエントリー、説明会への参加などの情報収集を開始した時期は「3年生の12月」が半数を占める結果となりました。企業の採用情報が公開されるタイミングに集中していることから、それまでは部活に専念していた学生が多いと考えられます。



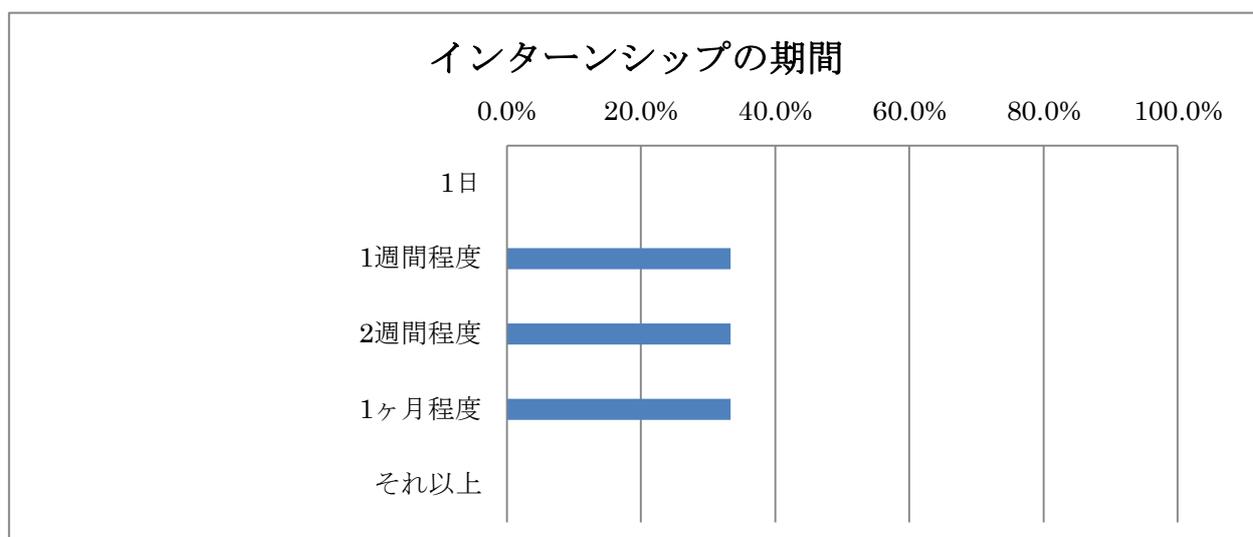
5. インターンシップに参加したことがある学生は約3割

インターンシップに参加したことがある学生は、全体の約3割程度となりました。現時点では他の学生と大きな差はありませんが、2016卒学生の就職活動においてはインターンシップの重要性が高まり、参加を希望する学生が増える可能性を考慮すると、**部活動に参加している学生にとっては高いハードルとなる**ことが想定されます。



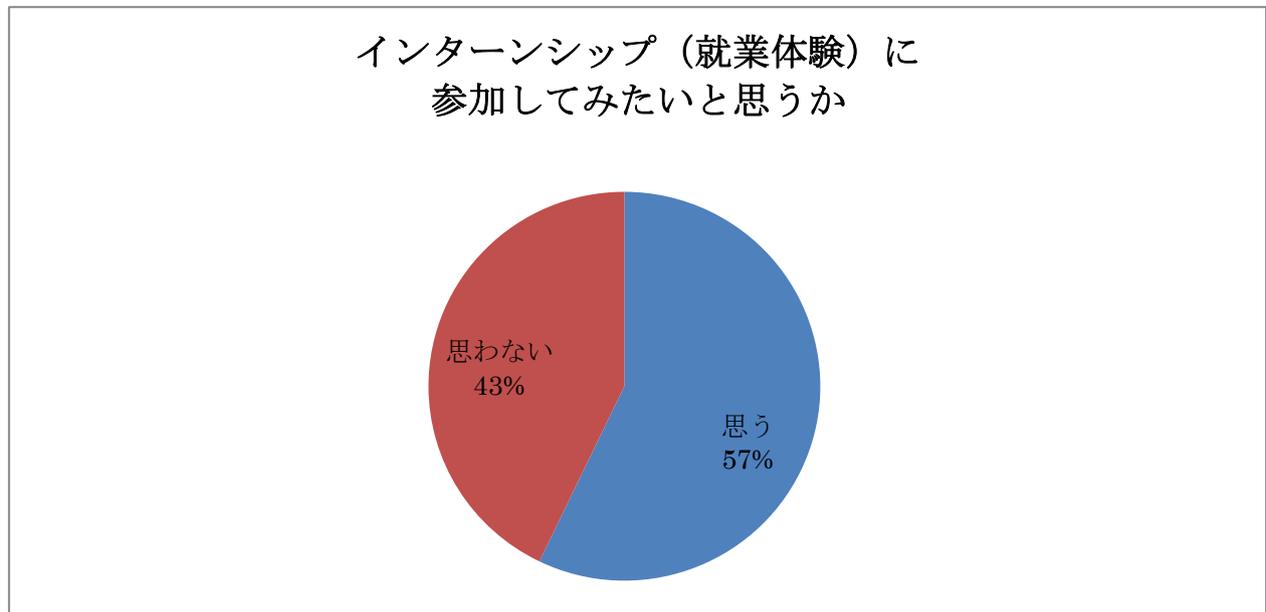
6. インターンシップの期間は「1週間程度」「2週間程度」「1ヶ月程度」が同率

インターンシップに参加した期間は「1週間程度」「2週間程度」「1ヶ月程度」が同率で並ぶ形となりました。近年は大学における正課としての単位認定型インターンシップも増加している一方、それ以上の期間でも興味のある学生は参加する傾向があるようです。



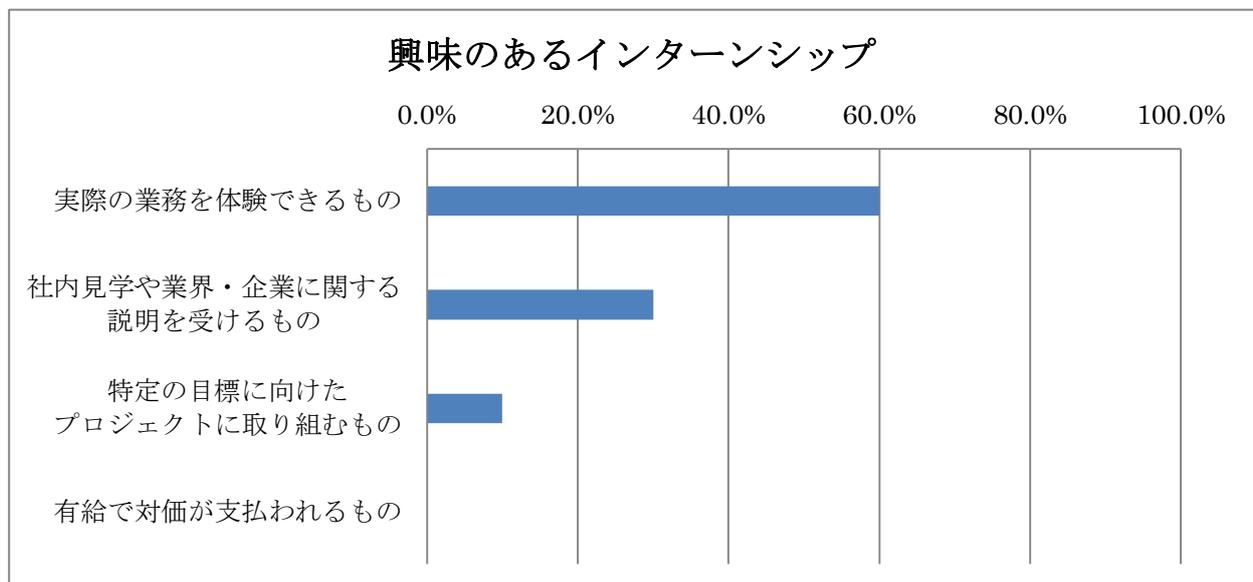
7.半数以上の学生が「インターンシップに参加してみたい」と回答

インターンシップに参加していない学生に対し、参加の意思を尋ねたところ半数以上が「参加してみたい」と回答しました。また、参加してみたいと思わない学生についても後述の回答から「参加してみたいが、時間がないので難しい」と感じている層が多いことが考えられます。



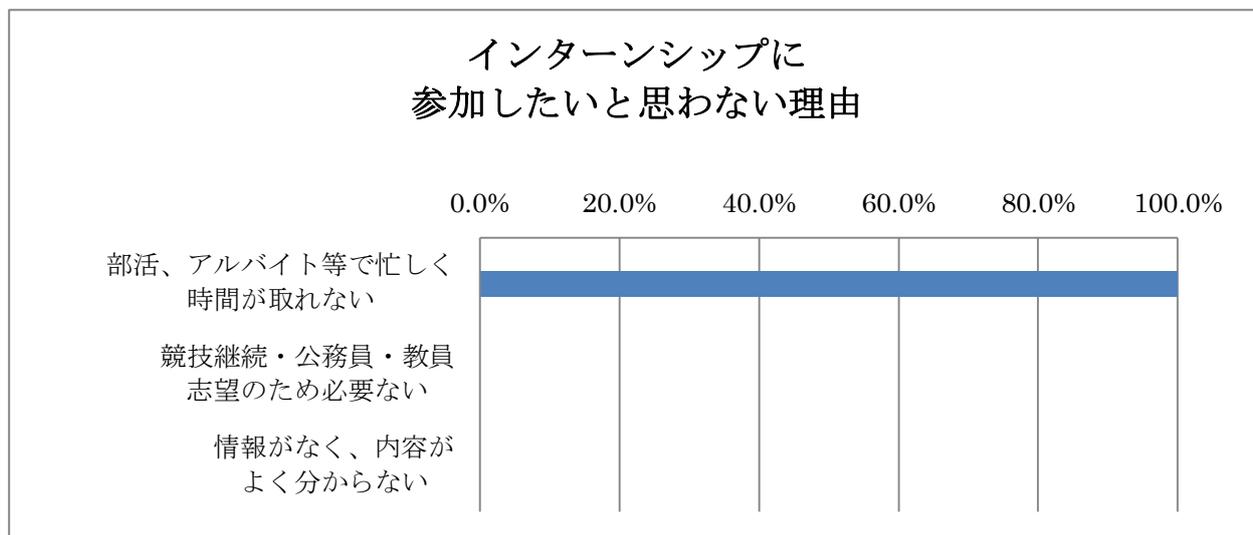
8.興味のあるインターンシップは「実務体験型」

どのようなインターンシップに興味があるかを尋ねたところ、「実際の業務を体験できるもの」が6割を超えトップとなりました。「有給で対価が支払われるもの」への回答がなかったこともあり、アルバイトと区別し入社後の業務を知りたい、体験したいというニーズがあるようです。またプロジェクト型のインターンシップは長期に渡ることも多く、部活動に支障が出ることを懸念した可能性も考えられます。



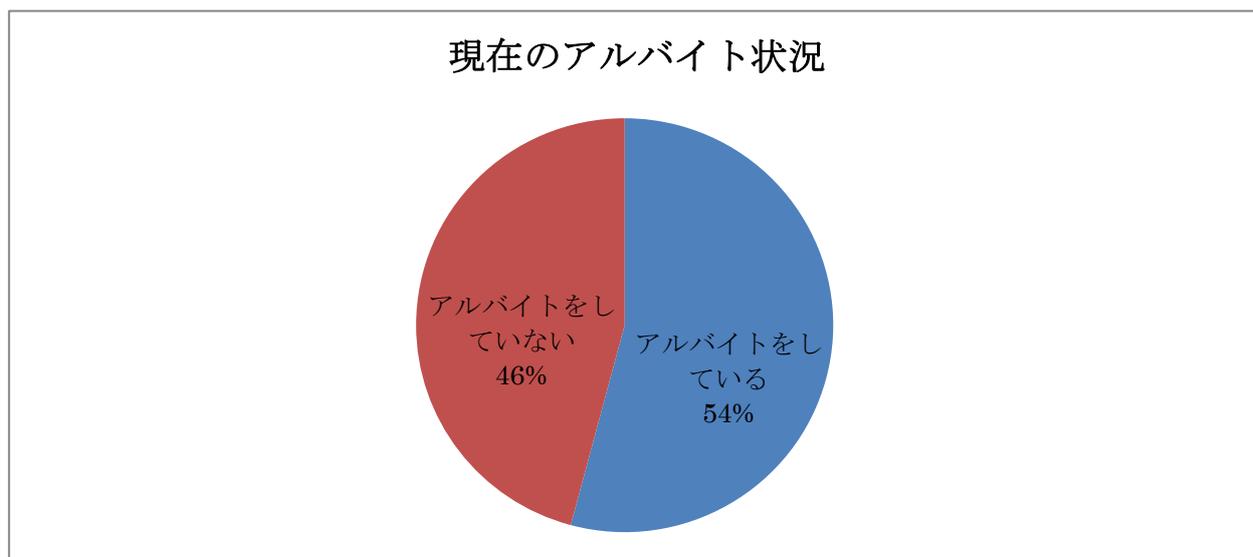
9. インターンシップに参加しない理由は「時間が取れない」から

インターンシップに参加しようと思わない学生に対し、その理由を尋ねたところ全員が「部活、アルバイト等で忙しくて時間が取れない」と回答しました。週5～6日で活動する部活が多い中、アルバイトをしている学生にとってはインターンシップに参加する時間を作る事が最大の障壁となるようです。



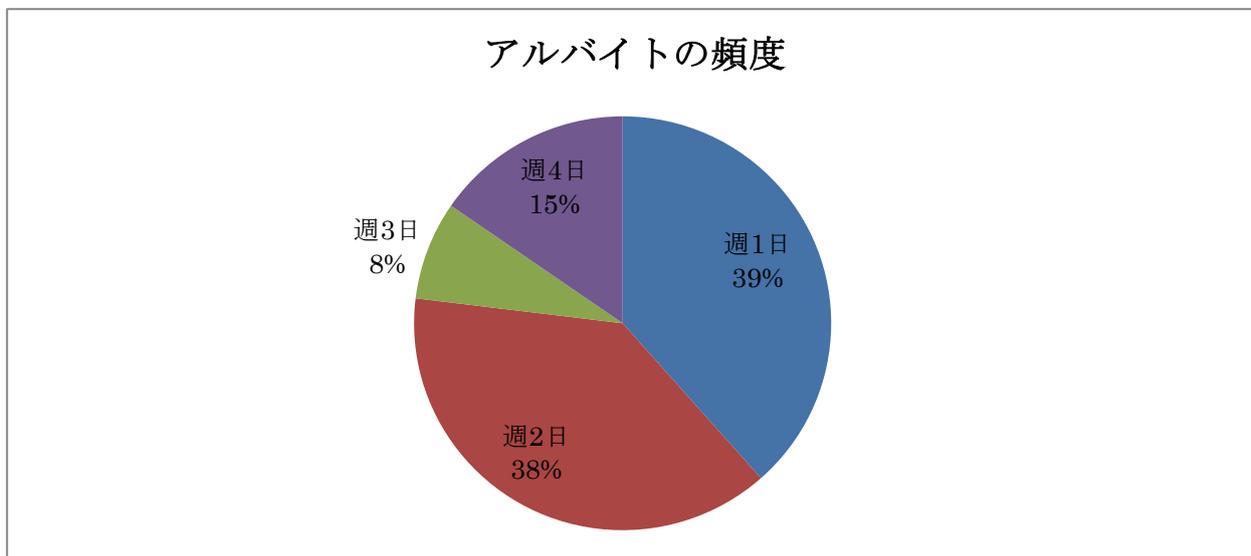
10. アルバイトをしている学生は約半数

現在、アルバイトをしている学生としていない学生の割合はほぼ同率で、している学生がやや多いという結果となりました。週に1日しかオフがない部活が多いため、アルバイトにも制約があるようです。



11. アルバイトの頻度は「週1～2日」で約8割

アルバイトをしている学生に、その頻度を尋ねたところ「週1日」「週2日」を合わせて約8割という結果になりました。授業などもある中、**部活動の合間でアルバイトを行うことができるのは週1～2日**であると読み取れます。



12. 長期オフの過ごし方は「帰省する」が6割を超えトップ

年末年始など長期オフの過ごし方を尋ねたところ「帰省する」と回答した学生が過半数となりました。**部活動に参加する学生は全国から集まることが多く、少ないオフを実家で過ごしたいと考える学生が多い**ようです。

